

ふるさと再発見

Re:discovery Omihachiman

第5回

近江八幡伝統の仕掛花火

篠田の花火

「近江八幡の花まつり」の一つで「左義長まつり」、「八幡まつり」などとともに、国選択無形民俗文化財となつている「篠田の花火」は、毎年5月4日の夜に行われます。これは篠田神社（上田町）の祭礼行事の一つで、市内の春祭りと同様に、太鼓渡御、松明奉火が行われますが、それを盛り上げるように「和火」と呼ばれる花火が行われます。

今年（令和元年）のテーマは「御世替り」に花火を奉納したことが起源とされています。境内に設置された巨大な立板に浮かび上がる仕掛花火の絵柄は、毎年、世相をからめ趣向を凝らした題材で、硫黄、硝石、ミョウバンなどを練り合わせた薬剤を下絵に沿って地元住民が丁寧に貼り付けられます。



▲昨年のテーマ「八徳と滅私のころろ」

午後8時過ぎから始まる打ち上げ花火の後、境内の入り口に取り付けられる色鮮やかな「吊りランス」とよばれる洋火、さらにナイアガラ花火が披露された後、綱火（ロケット花火）により和火に点火されます。くるくると激しく回転する舞火や火薬のはじける音、もつもつたる煙が消えると、静寂のなか、境内に設置された巨大な立板に藤紫色の絵柄が浮かび上がり、見物客はしばらくの間幻想の世界に酔いしれます。

「気持ちが一番」

（久郷さんにインタビュー）



篠田の花火保存会
代表理事 久郷 勲さん

篠田の花火は、国選択無形民俗文化財ですが、左義長まつり、八幡まつり、沙沙貴まつり（安土町常楽寺一帯）、竜王町の弓削の火祭り、近江八幡周辺で行われる一連の火祭りの一つです。

花火は火薬を使うため、安全面などに対するさまざまな制約があり、技術を引き継ぐことは難しいですが、以前に比べて、後継者に技術は伝わってきているのでうれしいです。若い世代は、伝統を守りながら、現在の方法でうまく技術を引き継いでくれています。悩みとしては、「心」をつなぐことです。

花火製造は、皆さんの気持ちでできています。女性の参加を拒むものでもありませんので、大いに参加してもらいたいと思っています。

広報おうみはちまんは、各自治会を通じてお届けします。また、各学区コミュニティセンターや図書館などの公共施設、郵便局、金融機関、セブン-イレブン・ファミリーマート各店舗のほか、市ホームページやマチイロ、マイ広報紙などでもご覧いただけます。

人口と世帯 平成31年4月1日現在
()は前月比

総数 82,063人 (-47)
男 40,362人 (-10)
女 41,701人 (-37)
世帯 33,681世帯 (+109)

※外国籍住民(38カ国・地域/1,425人)を含みます。

Facebook



YouTube



マチイロ



マイ広報紙



テレビ画面で広報紙

